

シニア団体活動支援事業は、元気な高齢者が地域の活動に参加するきっかけをつくり、高齢者の社会参加と自主的活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを目的としております。この広報誌では、年齢を感じさせず、いきいきと活動している本事業登録団体をご紹介します。

## 二本松フラ愛好会プルメリア

活動エリア	市町村	活動内容	電話番号・FAX メールアドレス等
東北地区	二本松市	フラダンスレッスン、福祉施設等慰問ボランティア活動	Tel 0243-22-2941 メールアドレ等
構成	年齢	活動日時	会費
男性 1名 女性 29名 計 30名	60歳代～80歳代 (80歳代が中心)	火・水・金コース 月3回9時30分～ 土コース 毎月第3土 18時～他	月会費2,000円 ボランティア費500円

### 〈フラダンスでボランティア活動〉

二本松フラ愛好会プルメリアは、平成14年に発足し、今年で15年が経過する。フラダンスの練習に励むだけでなく、積極的にボランティアに臨んでいる。毎月最低1回行う地域の福祉施設への慰問活動は、10年以上にわたり継続している。フラダンスだけでなく、脳トレの要素を取り入れたゲームを織り交ぜるなど、プログラムに工夫を凝らしている。



取材当日は地元の高齢者福祉施設で、慰問活動。フラダンスだけでなく、脳トレの要素を取り入れたゲームも踊りの間に挟むなど、内容が工夫されている。

この日慰問ボランティアへ参加した皆さん。月1回のボランティア活動は、会員の中心で交代しながら続けている。



### 〈人と人をつなぐ役割〉

最近では仮設住宅の住民も一緒に、地元福祉施設への慰問活動に参加するなど、二本松市社会福祉協議会からの依頼により、市内の仮設住宅でのフラダンス指導をきっかけに、プルメリアの活動は、単なる慰問ボランティアに終わらず、地元の人と新たな住民との交流を促す役割もはたしてきた。懸田幸子会長は「高齢者が多いので派手な活動は難しいが、できることであれば、お役に立ちたい」と今後の目標について話した。入会問合せは、会長まで。



指導を行う会長の懸田幸子氏（写真左）と唯一の男性太田敬重氏（写真右）。太田氏は浪江町より避難しており、二本松市内の仮設住宅で生活している。プルメリアによる仮設住宅へのボランティア活動がきっかけでフラダンスを始め、今回の慰問活動に参加した。

## 福福福神流どじょうすくい男踊りの会

活動エリア	市町村	活動内容	電話番号・FAX メールアドレス等
東北地区	福島市	定例会のほか、慰問ボランティア、イベント出演等	Tel 024-546-30097 (会長宅)
構成	年齢	活動日時	会費
男性 13名 女性 17名 計 30名	56歳～81歳	毎月第2月曜日 13時～ 不定期でイベント、ボランティア等	年会費2,400円 +α

### 〈日本を代表する民俗芸能〉

福福福神流どじょうすくい男踊りの会は、赤間利晴会長の元へ、どじょうすくい踊りの指導要望があったことをきっかけに、平成22年に有志を募り会を立上げた。どじょうすくい男踊りは、島根県安来市発祥の日本を代表する民俗芸能のひとつ。親しみある踊りだが、単なる宴会芸でなくステージ上で発表する踊りをめざし、振付は遠くからでも見えるよう大きめにアレンジされている。



この日定期練習へ参加した皆さん。



定例会ではどじょうすくい踊りを曲に合わせて練習する。ステージ上で発表しても見栄えするよう、動きが大きいのが特徴だ。



ボランティアにてどじょうすくい踊りを披露した時の様子。



あかまとしはる  
会長赤間利晴氏が指導にあたる。

とつに掲げており、福祉施設等へのボランティアやイベント出演を積極的に行っている。特に高齢者には歓迎されることが多く、指名がかかることもあるそうだ。「誰もが知る踊りだからこそ、初心者でも取り組みやすく、見ている方にも楽しんでもらえる」と話すのは、赤間利晴会長。「福島市を笑顔溢れるまちに、福島市の元気発信に少しでもお役に立ちたい」と今後の目標をうかがった。入会問合せは、会長まで。

# 福島県ラージボール卓球協会

活動エリア	県全域	
市町村	郡山市 (団体事務局)	
電話番号・FAX メールアドレス等	TEL024-952-2896 (団体事務局長宅)	
活動内容	県内大会主催のほか、スキルアップ講座等を開催	
構成	男性	女性
内容	229名	223名
年齢	40〜90歳 (40歳未満の貧乏名あり)	
構成	452名	計
日時	不定期	
活動日時	不定期	
会費	年会費1,000円	

## 〈奥が深いラージボール卓球〉

福島県卓球協会の下部組織として、昭和62年に福島県卓球ベテラン会として発足。県内各種大会やレベルアップ講習会を開催している。平成28年4月より福島県ラージボール卓球協会へ改名し、ラージボール卓球の普及に努めている。ラージボール卓球は、公式球よりも若干大きい球を使用し、球速が遅めでラリーが続きやすい特徴がある。ラリーを制するための様々な駆け引きやテクニックが必要とされ、奥深い魅力があるという。

## 〈年齢を問わない生涯スポーツ〉

最も厚い選手層は70代〜80代だが、最近では40代の若い選手も増加している。「生涯スポーツとしてのラージボール卓球の目的は、健康増進と選手間の親睦であるので、勝敗にこだわらずに楽しんでプレーしてほしい」と話すのは、会長の大藤務氏と副会長の桑原高志氏。さらに「怪我をすることが無いよう、いろいろな人との交流を楽しみながら、多くの方にプレーしてほしい」と話した。入会問合せは、団体事務局まで。



この日話を伺った会長大藤務氏 (写真中央)、副会長桑原高志氏 (写真右) 事務局長大槻力也氏 (写真左)。



夏季3名ダブルス卓球大会当日、全24台の卓球台でそれぞれのクラスに分かれて試合が行われた。



今大会参加者で最高齢の中丸アイ子氏 (90歳:写真左)「卓球を通していろんな人と交流できるのが楽しい」男性最高齢半沢哲雄氏 (83歳:写真右)「持病があるが健康のために卓球を続けたい」。

# 南相馬球友会

活動エリア	相双地区	
市町村	南相馬市	
電話番号・FAX メールアドレス等	TEL0244-24-0619 (会長宅)	
活動内容	定期練習のほか、各種大会に参加 (県外遠征もあり)	
構成	男性	女性
内容	30名	0名
年齢	60〜81歳	
構成	30名	計
日時	2月〜10月の毎週日・水曜日 14時〜16時に定期練習	
活動日時	2月〜10月の毎週日・水曜日 14時〜16時に定期練習	
会費	年会費20,000円 (県内外遠征費他) ※雨天順延の際は、臨時徴収も有。	

## 〈高校球児の青春を再び〉

南相馬球友会は、野球好きの有志により平成13年に「オール原町シニア野球クラブ」として発足した。平成20年に「南相馬球友会」に改名し、今年で創立15年目を迎える。還暦を過ぎた中学・高校時代の野球経験者が、再び大好きな野球に取り組み姿は、シニアと思えないほどキレのある動き。近々開催される大会に向け、真剣に練習に臨んでいる。毎年4月から10月までのシーズン中は、県内外に遠征し、リーグ戦も含めると年間20試合程度出場する。大会が近いと休み返上で練習するなど、強豪チームらしく練習熱心だ。



会では、南相馬市野球場の整備を請け負っている。日常的なグラウンド整備のほか芝刈りや観客席の草刈りなども定期的にしている。

## 〈ゲームの勝敗よりも大事なこと〉

「勝敗も大事だが勝利至上主義にならないよう、日々の生活に目標と生きがいを見出すことが目的」と話すのは、会長の松崎肇氏。「野球を通して助け合い、思いやりの精神をもち、健康保持や会員の親睦、他チームとの交流が大事」だと話してくれた。入会は随時可。問合せは、会長まで。



この日の練習に参加した皆さん。お話を伺ったのは、会長の松崎肇氏。(写真前列右側)



グラウンドで汗を流す姿は、皆元高校球児とあって、高齢者と思えないほどキレがある動き。

## シニア団体活動支援事業の登録団体を募集しております

—いきいきと活躍するシニアサークル・団体の登録をお待ちしております—

### ●活動紹介してみませんか？

いきいきと活動している県内のサークルや団体の活動状況を本会ウェブサイトや本チラシでご紹介します。

### ●対象となるのは？

シニア世代が中心となって活動されているサークル・団体様 (年齢構成、活動内容、法人格の有無は問いません)

### ●参加方法は？

この事業は登録制で、登録は無料です。年度途中からの参加も可能です。登録のご案内やご不明な点がある場合は、本会に直接お問合せ下さい。

### ●発行元・問合せ先 福島県社会福祉協議会 いきいき長寿課

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111番地 福島県総合社会福祉センター3階  
TEL (024) 524-2224 FAX (024) 524-2228